

	牧師	山本護	司式	清水由可	奏楽	椰野真弓
前	奏	黙想			祈	禱
頌	栄	531	こころのおごとに		讃	美歌 207 主イエスよこころ
祈	禱				献	金
信仰告白		使徒信条	566		讃	詠 547 いまささぐるそなえものを
聖	書	申命記	26:6~9		主の祈り	564
		マタイによる福音書	27:25		讃	詠 546 聖なるかな、せいなるかな
讃	美歌	492	かみのめぐみは		祝	禱
説	教	『聖書の中のユダヤ人』			後	奏
		長崎 哲夫	牧師			

創世記 12:1 に、父テラと共にカルデア(BC612 アッシリア帝国滅亡後のバビロニア帝国)のウルを出奔後ウフラテス川上流ハランに落ち着いたアブラハム一族は、初めからユダヤ人とかイスラエルとは呼称されない。彼らが初めて「イスラエル」と呼ばれるのは、兄エサウを騙して長子の祝福を盗み、母リベカの兄ラバンのもとへ身を寄せたヤコブが、長年伯父の酷使から 2 人の妻、2 人の側女と 11 人の子どもを連れてバダン・アラムを逃れ、ヤボクの渡しで何者かと夜明けまで格闘し、「神と人と闘って勝って」以来のことである(同 32:23)。

ヤコブの末子ヨセフ一族は幾つかの紆余曲折を経て、エジプトで 430 年も寄留し、壮年男子だけで 60 万人に膨らんだ集団となりモーセに繋げられた。神はイスラエルを真の自由の地、乳と蜜の流れる故郷(出 12:37)に向かわせ、過越や除酵祭、初子の奉獻の教えを受け、昼は雲の柱、夜は火の柱が民に先立ち、また殿となって、紅海の渴いた地でファラオの馬と戦車と騎兵の追跡をかわして(同 14:19)、出エジプトした。この時、モーセの姉ミリアムは、「主は大いなる威光を示し、馬と乗り手とを海に投げ込まれた」と小太鼓を打ち鳴らし、主の御業を讃えた(同 15:21)。

モーセは、聖書の神の信仰は「荒野」にあり、甘き時代と世には存在しないことを自ら体現した。神は荒野にて群れに信仰を与え、訓練し、鍛えた。荒野にて主は民に苦しみを与えると共に、またそれに謙遜と忍耐の意味深さを教えた。シュルの荒野に到るまで民の水の不平は増した(苦いマラ)。だが主は、モーセに木の枝一本を水に投げ込ませて水を甘くした。枝はやがて主の「十戒」の掟と法の基とした。更に飢えの苦しみにエジプトの肉鍋を懐かしむイスラエルに(同 16:3)神はコエンドロに似て蜜の味がするマナを与えて荒野 40 年の最後まで民を養い、主なる神の声を聞くモーセをもって旅路を導いた(申 27)。かくして、一行の導き手モーセはヨルダン川渡河の目的地をモアブ平野の北ネゴ山頂から一同が行くべきパレスチナ全土を見渡し、ほぼ達成が見えた時、「あなたはしかし、渡って行かない」(同 34:4)との声を聞き、生涯を終える。モーセをベト・ペオル近くモアブの地に葬ったのは、読者がモーセの業績にはせぬ神の意図を知るべきなのか。まことに、神の「出ると入る」(同 28:6)の祝福は意味深い。

聖書が最初にイスラエルを「ユダヤ人」と呼んだのは、バビロン王ネブカデネザルの捕囚人ダニエルら 3 人が王の造った金の像を拝まぬことでカルデア人に中傷された言葉の中にある(ダニ 3:8)。一方ペルシャ王クロスによってバビロン捕囚から解放された人々は、エルサレムに帰還して荒廃した神殿や石垣の修復をした。彼らは「ユダの者」(エズ 4:12)と言われた。イスラエル 12 部族のうちエルサレムを擁したユダの地の人々は主としてそう呼ばれていた。以後出エジプトした民の果ては新約のイエス・キリストの苦難と十字架の生涯に迄、主としてユダヤ人(ファリサイ派)として一貫して登場する。

現代史には、シオニスト、ナチの 600 万の暴挙、エリ・ビーゼルの三部作「朝・昼・夜」、告白教会、ボンヘッファー、ディケンズのクリスマスキャロル、杉原千畝等わけてもエルサレムのホロコースト博物館・ヤドバシエムの子ども等のズック靴の山展示は何時までも心から離れない。

(長崎哲夫牧師の説教要約)

本日の礼拝説教は長崎哲夫牧師です。長崎牧師には奇数月の第四主日に説教をお願いしています。7/26(火)10:00~11:30 甲府聖研(YMCA)、どなたでも参加可です。牧師の動き:7/25 刑務所で教誨。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。